



阿蘇写友会



今日は、カメラのレンズを通して絶妙に阿蘇の魅力を引き出す「阿蘇写友会」の皆さんをご紹介します。

「阿蘇写友会」(小島良邦会長ほか9人)は、写真好きの人たちでつくる結成から40年余りとなる趣味の会です。

カメラの時代はモノクロからデジタルへと変わりつつも「最高の一枚」に情熱を注ぎ撮影を楽しんでいます。

阿蘇の美しさを追求してきた人たち

現在の活動は、月に一度の例会と年2回の撮影会の参加。また、阿蘇火の山祭り、阿蘇市文化祭、熊本市上通りのギャラリーで写真展を開催されています。

会員の自宅を回って行われる例会では、それぞれの写真を持ち寄り批評し合っています。最近撮った中から一人5点の写真とすべて全員で採点し、順位を決めたら講評がスタート。撮影者の名前はふせて審査しているの、良い点悪い点に

関してストレートな意見が飛び交います。例会での写真とはいえ、レベルの高い写真ばかり。

朝4時から待つて撮ったという雲海や日の出、活気あるふるりの祭り、日常の何気ないシーン……。ひとつ一つから自然や人間の息づかいが伝わってきます。

写真はひと月にどれくらい撮りますか?の質問に36枚を10本くらいかな。と答える会員。撮る数も多いですが、その被写体の最もいいシャッターチャンスを狙うため使った時間と行動力にまた驚かされます。

納得いく写真をとるためには妥協しない人たちなのです。写真を撮影する前に決める構図も非常に重要で、アップで撮る花や蝶、また広大な山々の景色にしても、わずかな構図の変化で写真の表情が変わるので大事にしたいポイントです。トリミングも同様で、

センスの活きる作業です。しかし、写真のおもしろさには『運もある』というのが会員にはたまらない様子。「昔は、写真のことについて話さずと、夜が明けていたほどです」と皆さん。

それぞれの苦労話やこだわり、工夫、穴場情報に花が咲きます。

【写友会からワンポイントアドバイス】 雲海をうまく撮る方法

雲海がもっとも発生しやすい季節です。神秘の美しさをぜひカメラに収めましょう。まず何といっても朝起き、そして何回もチャンスを待つことです。撮影ポイントは、北外輪山(大観峰車道)や阿蘇五岳(涅槃像)。三脚を使う。レンズは広角(35ミリ位)も面白い、涅槃像が全部入る。根子岳も魅力で望遠系(200~300ミリ)で撮る。



▲例会で講評し合うメンバー

展示会のお知らせ

火の山祭り
8月19・20日
(阿蘇体育館)

阿蘇市文化祭
10月13・14日
(阿蘇体育館)

阿蘇風物写真展
9月4~10日
(上通り大宝堂地下)

阿蘇を知らなければシャッターチャンスにつながらない

「阿蘇は素材の宝庫。四季折々にいい。写真を撮始めて40年になるがまだまだ撮りこなせていない」と会員の一人。

「全国からこの世界に誇る雄大な阿蘇を撮ろうと多くの写真家たちが訪れるが、日ごろから見つけている自分たちにとっては当たり前のこと……。地元の写真家である我々は、阿蘇の裏の魅力、まだ知られていない阿蘇の表情を撮り集め、いろんな角度から引き立たせた阿蘇の姿を多くの方たちに紹介したい」と小島会長。これら開催予定の展示会では、そんな会員の皆さんの個性ある写真が多彩に登場します。